

## 著作権改正要望のヒアリング説明要旨

平成27年7月24日

公益社団法人 私立大学情報教育協会

### 1. ICT活用教育の果たす高等教育における教育上の意義

#### (1) 高等教育の使命と課題

我が国は、経済・財政危機、少子高齢化と生産人口の減少、社会保障制度の行き詰まり、国際競争力の低下、エネルギー確保と環境問題、国際秩序・外交問題など日本社会だけでなく地球規模に至る課題に遭遇している。その解決の源は、市民一人ひとりの多様な「個の力」を組み合わせ日本全体で新しい価値を創り出していく人材の育成が問われている。

とりわけ、高等教育においては、未来に立ち向かう学生一人ひとりが自分の目標を自分で見出して実践する、答えのない問題に答えを見出す力を生涯に亘って身に付けられるよう、大学教育の質的転換が求められており、「第2期教育振興計画」で「課題探求能力を身に付けられるよう、学生の主体的な学びを確立する」とし、その主な取り組みの中で、「ICTを活用した双方向型の授業・自修支援などの学修環境整備への支援を促進する」としている。

#### (2) ICT活用教育の果たす大学教育での意義

主体的な学びを展開していくには対面による教室授業に加えて、学生一人ひとりが知識の定着に能動的に取り組めるよう教室外での事前学修・事後の展開が必須で、学生の理解度に応じた学びをネット上で展開するeラーニングが不可欠となっている。また、知識の活用・創造を目指して主体的な学びを展開できるようネットを活用した学生同士によるチーム学修や学修成果の発表、ネット上での教員や社会の有識者などからの助言・評価を取り入れ、学びの振り返りを繰り返す中で発展的な学修を実現するICT活用教育の普及が急がれている。

#### (3) 教育の質を高めるためのICT活用教育の教材

これまでの教育は担当教員による一方向的な知識伝達型の授業が主流であったが、これからの教育は課題探求型の授業に転換することが求められている。それには、教員間・教育機関間において、企業・地域社会などの有識者や専門家の知見等第三者のコンテンツをインターネット上で構成して組み合わせるなど最適な教材をタイムリーに提供する学修環境が不可欠となっている。

例えば、eラーニングでは担当教員の作成した教材に限定することなく、多様な学生の理解度に応じた教材をネットワークを通じて教員間で共有し、教材の豊富化を図る必要がある。また、課題探求型授業では、多様な視点をもたらす教材をネット上に掲載し教員間で共有・利用できるようにするとともに、学外の学識者・有識者を交えたネット討論などの映像を教材として配信・利用できるようにするなど、社会の協力と連携による教材共有の仕組み作りが急がれる。

## 2. 大学における ICT 活用教育の現状と著作物利用実態について

### (1) 大学における ICT 活用教育の現状

平成25年度の本協会調査によれば授業改善のために積極的に ICT を活用している本協会加盟校（全私立大学の4割）の教員は、回答大学 251 校、回答教員 1 万 6 千人の約 5 割となっている。活用の内容は、約 9 割が「ネット上で授業内容及び学修内容の明確化」、5 割が「ネット上で事前・事後学修を展開する eラーニングの実施」、1 割が「電子掲示板を用いた意見発表・相互評価や産業界・地域社会とネット上で連携した助言・評価」などとしているが、3 年先の平成 28 年度の計画としては eラーニングが 7 割、他の ICT 活用は 3 割と拡大する傾向にある。したがって、大半の大学で eラーニングによる「教室外学修」が実施され又は計画されているといえる。

### (2) ICT 活用教育における電子著作物の利用実態

#### (2) - 1 本協会の電子著作物相互利用事業について

##### ① 目的

ICT 活用教育の教材の質向上に資する取り組みとして、授業用教材や教育事例などのデジタルコンテンツをインターネット上で閲覧・相互利用することで、教育水準の向上及び、相互利用に伴う著作権処理手続きの簡便化を図ることとしている。

##### ② メリット

利用者は、学生の能力に応じたきめの細かい教材づくりに限界があることから、多様な視点による教材を組み合わせることで、最適な教材を用いて授業を展開できる。また、提供者は、提供したコンテンツが他者に利用された実績（利用者情報、利用授業の分野・規模など）を教育業績の資料として活用できるとともに、他者の授業における教材の効果を確認することで、教材の質をより向上させることが可能となる。

##### ③ 対象者

大学・短期大学の教職員とする。

##### ④ 仕組み

Web による相互利用システムを無料で実施している。

- a. コンテンツの提供者は、コンテンツファイル、タイトル・学問分野などの情報を登録する。

- b. 利用者は検索画面から希望のコンテンツの利用申し込みを行い、コンテンツファイルをダウンロードして入手する。
  - c. 入手したコンテンツは、複製、公衆送信、自動公衆送信可能化などの利用ができるようにしている。
  - d. コンテンツ提供者・利用者ともID、パスワードで管理しており、コンテンツの提供及び利用申込の履歴を本協会が把握している。
- ⑤ 主に扱うコンテンツについて
- a. 種類  
講義スライド、練習・演習問題、資料（文章・静止画・動画）、プログラム、教育方法の研究論文・レジュメ
  - b. 学問分野  
全学問分野としているが、現在は主に以下の分野が登録されている。  
語学、心理学、情報科学、経済、経営、法律、会計学、数学、物理学、生物学、化学、機械工学、建築学、土木工学、被服学、食物栄養学、保育学、教育学、医学、歯学、薬学、看護学、体育、美術・デザイン・音楽などの芸術系教育
  - c. コンテンツ数  
登録コンテンツ数 : 2,907 件  
第三者の著作物を利用したコンテンツ数 : 628 件  
(参考資料1「電子著作物相互利用事業 コンテンツ登録画面」p.2 点線枠内を参照)  
利用登録者数 : 1,874 名

⑥ 著作物利用の課題

現在、登録されているコンテンツは、著作権処理の煩雑さが影響していることもあり大半が自作となっている。登録コンテンツ数が少ないことも同様の理由が考えられる。

(2) - 2 第三者のコンテンツ教育利用と著作権処理について

- ① 第三者のコンテンツを教育で利用する際の著作権処理の問題について情報収集するため、eラーニングを積極的に実施している本協会委員223名を対象にアンケートを実施したところ、24分野、43名から70件の意見が寄せられた。  
(参考資料2「事前・事後学修における第三者のコンテンツ利用に関する教員アンケート結果」参照。)
- ② 著作権処理で困った点としては主に、「非営利の教育であっても許諾を必要とすることは現実的には大変煩雑な作業であり、進歩の激しい現代社会に対応しようとする高等教育において障害の一つであると考えられる」、「コンテンツが多いため許諾手続きの手間や時間がとれず利用をあきらめた」、「著作権者の連絡先がわからないため利用をあきらめた」、「諾否の回答が来ないため利用をあきらめた」などであった。
- ③ コンテンツ利用と著作権処理の問題について、具体的事例として医学分野を例に紹

介する。

### 3. ICT 活用教育の推進に向けた著作物利用円滑化のための提案・要望

#### (1) 異時利用での公衆送信を可能とするための著作権法改正

eラーニングは、時間や場所を問わず学生の理解度に応じて繰り返し学修を実現できることから、大学教育に不可欠な教育システムとして多くの大学に導入されているが、現行の著作権法では電子著作物を公衆送信する条件が「同時利用」に限定されており、「異時利用」での公衆送信が認められていないため、著作権処理の手続が煩雑である、権利者からの許諾が得られない等の理由から、適切な教材を利用した教育が実施できないという実態がある。ついては、学校その他の教育機関の授業で一定の条件のもとで、異時での自動公衆送信（送信可能化を含む）が認められるよう、著作権法の改正を要望する。法の運用に当たっては、著作権者の利益を不当に害しないよう、大学として、遵守すべき利用条件を明確にし、組織として対応することを前提に改正を検討いただきたい。

#### (2) 教員間、教育機関間で行われる教材共有を促進するための著作権法改正

より教育に適した教材がタイムリーに利用できる学修環境を整備するためには、教員が自ら授業に使用する教材を作成するだけでなく、第三者のコンテンツ利用を前提とした教員間や教育機関間で教材を共有できることが不可欠であるが、現在の著作権法においては、他の教員や教育機関が教育に利用できるよう教材を複製・公衆送信することができない。一定の条件のもとで教員や教育機関を超えた教材の共有が可能となるよう、著作権法の改正を要望する。

#### (3) 権利者側による、著作物利用の円滑化のための著作権処理の集中管理・体制の充実

社会にある豊富な著作物を ICT 活用教育のために利用したいときに契約処理が必要な場合、簡便にアクセスできるよう、著作権の集中管理の仕組みや ICT 活用教育に対応した著作権処理の体制づくりに早急に取り組んでいただきたい。

教育コンテンツ相互利用システム

JUCE公益社団法人私立大学情報教育協会

電子著作物相互利用事業

- 著作物利用
  - ▶ 検索・利用許諾手続き
  - ▶ 利用履歴
- 著作物管理
  - ▶ アップロード
  - ▶ **登録**
  - ▶ 検索・修正・削除
  - ▶ 一括処理
  - ▶ 登録著作物利用状況表示
  - ▶ 共同著作者・著作権者登録依頼
  - ▶ 共同著作者・著作権者登録依頼状況表示
- その他の機能
  - ▶ パスワード変更
  - ▶ ログアウト

著作物情報登録 STEP1 登録内容入力 > STEP2 登録内容確認 > STEP3 登録完了

<登録前にご注意>

- (1)コンテンツを登録(アップロード)する前に[こちら](#)を確認して下さい。
- (2)著作物の登録は、事前に著作物ファイルをアップロードしておく必要があります。  
 著作物ファイルのアップロードがまだ済んでいない場合は、[こちら](#)から著作物ファイルをアップロードしてください。  
 アップロード後に、再度この画面から著作物情報を登録ください。

「■」は入力必須項目です。

著作物情報

■ 著作物ファイル ▼選択して下さい▼

■ 著作物名

[?](#)  
HELP

- 権利者の区分
- 個人著作:個人で著作物を創作した
  - 共同著作:複数の著作(権者)が共同して著作物を創作した
  - 法人著作:法人や大学の著作物として創作した
  - [▶ いずれに該当するのかわからない場合こちら](#)

■ 著作者(登録者)のID Z900USER01

■ 著作者のIDと分配率

<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text" value="Z900USER01"/>	<input type="button" value="ID検索"/>	<input style="width: 20px;" type="text" value="100"/>	% 平田 千奈美
<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input type="button" value="ID検索"/>	<input style="width: 20px;" type="text"/>	%
<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input type="button" value="ID検索"/>	<input style="width: 20px;" type="text"/>	%
<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input type="button" value="ID検索"/>	<input style="width: 20px;" type="text"/>	%
<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input type="button" value="ID検索"/>	<input style="width: 20px;" type="text"/>	%
<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input type="button" value="ID検索"/>	<input style="width: 20px;" type="text"/>	%
<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input type="button" value="ID検索"/>	<input style="width: 20px;" type="text"/>	%
<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input type="button" value="ID検索"/>	<input style="width: 20px;" type="text"/>	%
<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input type="button" value="ID検索"/>	<input style="width: 20px;" type="text"/>	%

[?](#)  
HELP

著作者のID:半角英数5~16文字 分配率:すべてを加算して100%になるように設定

■ 学系分類 大項目: ▼選択して下さい▼ 小項目: ▼選択して下さい▼

- 著作物の区分
- 講義ノート
  - 教科書
  - 研究論文
  - 資料(静止画含む)
  - 作品(動画・音声除く)
  - 演習・練習問題
  - 試験問題
  - プログラム・データベース
  - 授業録画(動画・音声)
  - 資料映像(動画・音声)
  - 作品映像(動画・音声)

■ ファイル形式

[?](#)  
HELP

128文字まで  
 例1:Microsoft Word  
 例2:<圧縮ファイルの場合>圧縮ファイル:LZH

■ ファイル容量

KB MB GB

半角数字8文字まで  
例:200

■ ファイルの動作環境

[?](#)  
HELP

128文字まで  
例1: Microsoft Office 2000  
例2: <解凍ファイルの場合> 解凍ファイル:HTML、JPEG 動作環境:Internet Explorer 7.0以上

■ 必要なネットワーク回線の環境

128文字まで  
例:ファイルサイズが大きいため、ADSL以上の回線が望ましい

■ 関連リンク

[?](#)  
HELP

 

半角英数字一部記号256文字まで

■ キーワード

固定キーワード(複数選択可)

- |                                       |                                       |                                       |
|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 講義ノート        | <input type="checkbox"/> 教科書          | <input type="checkbox"/> 研究論文         |
| <input type="checkbox"/> 資料(静止画含む)    | <input type="checkbox"/> 作品(動画像・音声除く) | <input type="checkbox"/> 演習・練習問題      |
| <input type="checkbox"/> 試験問題         | <input type="checkbox"/> プログラム・データベース | <input type="checkbox"/> 授業録画(動画像・音声) |
| <input type="checkbox"/> 資料映像(動画像・音声) | <input type="checkbox"/> 作品映像(動画像・音声) |                                       |

自由キーワード

    

それぞれ全角・半角合わせて32文字まで 半角スペースは無効  
固定キーワード 又は 自由キーワード いずれか1つ以上指定してください

■ 概要

1000文字まで

■ 授業での利用イメージ

[?](#)  
HELP

1000文字まで

■ 利用の効果

1000文字まで

■ 原著作権(権)者への許諾手続き

[?](#)  
HELP

- 原著作権(権)者と契約している、または原著作権(権)者の許諾を得ている  
 他者の著作物を利用していない、または引用の範囲なので、原著作権(権)者との契約や許諾手続きは不要

[▶](#) 許諾手続きが必要かわからない場合はこちら

■ 著作(権)者以外の権利者への許諾手続き

[?](#)  
HELP

- 権利者の許諾を得ている  
 許諾手続きは不要

■ 利用条件 - その他

512文字まで

■ 使用料

- 無料とする
- 全ての利用方法を認め、無料とする(教育目的に限る)
- 一律の料金設定とする

一律  円

- 人数区分による料金を設定する

名まで  円

名まで  円

名まで  円

名まで  円

名まで  円

上記の最大人数を超えるときは

名ごとに  円を加算した額とする

金額・人数入力:半角英数字8文字まで、カンマを入れない

登録内容確認

初期状態に戻す

調査期間	平成27年2月24日～3月30日
送付数	223名 (31分野、104大学・8短期大学)
回答数	43名 (24分野、21大学・2短期大学)
回答事例数	70件

## 主な意見(抜粋)

分野	(1)他者の著作物を利用する 授業科目 年次 人数		(2)利用した、または利用したい他者の著作物の 内容・目的・利用範囲・利用方法	(3)他者の著作物を利用する際に対応してきたこと、その後	
英語	英語	1年次	40名	事前事後学習用に教科書の一部をe-Text化した。 事前事後学習用にWeb等で公開されている映像や画像などもMoodle上に教材または資料として掲載したい。	教科書の一部のe-Text化と利用は、事前に出版社と連絡を取り、受講生限定アクセスの条件で許諾を得て、Moodle上に掲載した。
会計学	財務諸表 I	修士1年	3名	Webに掲載されている企業の財務諸表の実例をダウンロードし、学生に分析させたい。	
機械工学	力学の基礎2、流体力学1	1年次、3年次	100名	専門分野に関連した英語力を育成するため、OCWやMOOCで公開されている海外の講義ビデオを、授業中の視聴覚教材および予習教材として利用したい。	無償公開されている動画に関しては、 ・学生に公開元のURLを指示する。 ・授業中の利用の場合には許諾手続きをとることなく利用する。 といった対応をとっている。 ただし、自身の授業収録・配信を行っている関係で、以下の対応をとっている。 ・授業中に動画を上映しているシーンは、配信ビデオから削除する。 なお、海外の動画等に関しては、許諾のルール等について明るくないため、上記のような対応が適切かどうか判断が難しく、何らかの指針・支援があると望ましいと考えている。
機械工学	機械力学I	2年次	70名	指定した教科書や他の書籍の図や演習問題を事前学習用の動画(YouTube)で利用することで、事前学習の理解度を促進したい。 特に、海外の書籍の図は実例に近いものが多く、学生の関心を高めることができる。また、ネット上の実験画像も取り入れたい。	著作権の許諾が面倒なので、著作権にかかわるものは、授業中での提示に止め、Youtubeの素材にはオリジナルの図や問題を利用した。
経営工学	生産・物流管理演習	3年次	85名		授業でスクリーンに投影して見せるだけで、著作権法の範囲内での活用であるため、適法に使用している。授業欠席者、予習・復習のためや、学生の自発性を重視する教育であるアクティブ・ラーニングを推進するためには、学生が大学のネットワーク内にログインして、クローズドな環境で、教材が自由に閲覧できることが望ましい。しかし、現行の著作権法は、公開されたものであり、非営利な教育の場面であっても、著作権者の許諾を必要とすることは、現実的には大変煩雑な作業であり、進歩の激しい現代社会に対応しようとする大学の専門教育においては、高等教育に対する障害の一つであると考えられる。
建築工学	居住環境デザイン	3年次	20名	建築意匠について、哲学的見解、表現の効果、技術の多様性などを、分かりやすく理解させるために、各種文献、Web、専門雑誌等のビジュアル素材(写真、図、図面等)を利用したい。	特定の教科書の使用と自分の持つ情報もしくは所在情報(URL)の表示や授業で見せるだけに留めた。
情報系	情報ネットワーク、コンピュータネットワーク&アプリケーション	2年次、3年次	60名～100名	ICT関連技術や政策などに関する概念図や解説文、および関連サービスの市場データ等の各種統計データを授業や事前事後学習で利用している。技術や市場の変化が激しい分野であり、常に最新の情報やデータを活用したい。	
情報系	基礎からの情報処理	1年次	400名	コンピューティングの歴史を振り返る際に、古い計算機や情報システムの画像を授業中にPowerPointスライドとして提示するとともに、LMSでスライドを配布して事後学習に利用したい。	この科目では教科書を執筆したが、出版社の編集の方に著作権処理を一任した。一方、授業で使用する補足資料としてスライドを作成したが、著作権手続きが煩雑なとウェブ掲載分は連絡先が不明なことも多いため、スライドはPDFに変換し、改変・印刷不可にしてLMSで配布した。

分野	(1)他者の著作物を利用する			(2)利用した、または利用したい他者の著作物の 内容・目的・利用範囲・利用方法	(3)他者の著作物を利用する際に対応してきたこと、その後
	授業科目	年次	人数		
情報系	リスク危機管理論、リスクマネジメント	1年次、2年次	480(年によって異なる)	リスク危機マネジメントの必要な事例として、いろいろな災害、企業における経営ミスによるトラブルなどについて、WEBに掲載されている画像、動画、報道記事、図面資料などを利用できれば、学生にとって理解しやすい。	許諾手続きが取れたものについては、それを使用した方が、件数が多いと、結局、それを使うことを断念し、可能な範囲で対応せざるを得なかった。許諾手続きをとるためには、経費がかかるとともに申請書手続き等も必要である。その手続きには相手方との問題と同時に、学内手続きを伴っており、かなりの負担を感じた。件数が少ない場合は可能であるとしても、件数が多くなると、自分の手に負えず、結局、限られた資料だけで行うこととなりがちであった。
情報系	映像情報学	1年次	100	Webに掲載されているCG映像・記事のURLを提示し、事前学習に利用する。	事前事後学修としてLMSなどで利用する際、予め著作者の許諾を得て公衆送信する必要があるが、海外も含めて著作者の許諾を事前に得ることは実質不可能であるため、URL等の提示にとどめている。
数学	微分積分学、数学演習	1年次			Web上にある論文にするまでもない内容でも、教育上有益な情報もある。特に、教育として視覚化により理解を深めることは、Webを活用するのが最良だと考える。一方、Web上にあるコンテンツの大半は自由に使ってよいという意図のものが多いと思う。Webの掲載者(コンテンツ作成者)が、教材として他者が使用してよいものか等、使用範囲を明確にする活動(認識)が広まればよいと思っている。
生物学	生命科学	2~4年次	200名	生命科学(医学、バイオテクなども含めて)とは日常的な出会いの少ない学部学生に、現代のライフサイエンスの技術進展と生命倫理的な面から「人の命」の決め方、諦め方の困難さについて、最新の映像(テレビも含めて)、Web上の最新事例紹介などを通して事前学習する。こうした学習教材を大学で利用しているLMS上に掲載し、授業後の事後学習にも利用して理解を深める、という自学自習にも活用したい。	関連学会などで明確に許諾手続きを示している場合もあるが、多くの場合、利用したい著作物、映像などが複数あり、著作権などの許諾を得ることが困難な(時間的、連絡先などが不明)場合が多く、自身の教材を補填、改変して学内のLMS上への掲載をすることが多い。結果的には、学生へ必要な教材、資料の紹介を掲載し、学生自身の対応を促すケースも多い。
生物学	細胞生物学	3年次、4年次	80名	近年のバイオテクノロジーの進化は目覚ましく、特に欧米の一流科学者が書いた教科書が日本の学生に普及するところには(英訳した教科書が出版される)、次の新しい教科書(ひどい時は、2つの新版が出ていることも)が出版されている。こうした大きなギャップをできるだけスムーズにするために、学生の事前事後学習が、特にこの分野では必須である。そのために、科学雑誌からの最新事例紹介(Web上の掲載記事も含めて)、テレビのニュースなどから事例紹介映像の掲載、新聞記事などを取り込んで、学習補助教材としてLMS上に掲載し、学生の事前事後学習に自由に利用させたい。	生命科学、細胞生物学、バイオテクノロジーなどで利用する教材のほとんど全部が英文なので、原著をどのように扱うのかが不明なケースがほとんどである。そうした資料がWeb上で公開されている範囲では、自由に扱える(内容の改変はしない)、という理解で対応している。しかし、こうした情報が別の授業でも共有されているわけでもないの、この分野での最新の授業構成については関係者(専門学会も含めて)の、もっと精力的な知恵と努力の提供が必要である。現実には、提示教材を利用した事前事後学習をする、しない、での学生の学習成果については、驚くほどの顕著な差が出ている、という事実もあり、他人の著作物、コンテンツの教育現場での利用についてはもっと自由裁量であっても良いかもしれない。
統計学	統計の基礎	2年次	60名	視覚化による理解を深めるため、Webに掲載されている統計教材を自習用eラーニングに教材として利用したい。	許諾手続きをとる手間や時間がなかったため、eラーニング教材としての利用をあきらめ、所在情報(URL)の表示だけにとどめた。
医学	医療情報学	3年次	110名	蘇生に係る重要事項の理解を深めるために、Webに公開されているガイドラインの図および重要事項の記載の一部を抜粋してLMS上の教材に掲載し、主として自学自習(反転学習)用の教材として利用したい。	

分野	(1)他者の著作物を利用する			(2)利用した、または利用したい他者の著作物の 内容・目的・利用範囲・利用方法	(3)他者の著作物を利用する際に対応してきたこと、その後
	授業科目	年次	人数		
医学				<p>右記のオンデマンド配信については、以下の対応をしている。</p> <p>* 配信サーバにアクセスする個人を特定・選別可能な認証機構を導入している。</p> <p>* 教員(学外講師を含む)に対し、自作のコンテンツおよび教員の授業中の映像配信の許諾とともに、他者の著作物から引用した図・写真等がある場合にはそれらについての出典の明示、および必要に応じて使用許諾をお願いしている。</p> <p>* オンデマンド配信に際しては、サーバにアップロードする前の段階で、授業中等に提示されたスライドの図等をできるだけ精査し、問題があると思われる場合にはアップロードを中止、または配信範囲を同一構内に限局する処置を講じている。</p>	<p>【学内管理者からの情報】急性腹症を題材とした仮設演繹法による診断プロセスの授業において、Webに公開されていた事例(経過と診療画像)が好適であったためオンデマンド配信を含めた利用について当該Webサイトの開設者に連絡したが、<b>諾否の回答が来ないためオンデマンド配信をあきらめた。</b>(その後、講義担当者が主題に該当する疾患に罹患し、経過・検査データの推移とともに診療画像も得られたため、次年度からは自身のデータを用いた講義としてオンデマンド配信を実現した)。</p>
医学					<p>【学内管理者からの情報】利用したい著作物が複数あり、担当教員からは「著作権者の許可を得ている」とのことでアップロードの準備をしたが、<b>コンテンツの一部に出典が不明で確認できないものがあり、オンデマンドでの配信をあきらめた。</b></p>
医学					<p>【学内管理者からの情報】教員が授業中に<b>自身の出演したTV映像</b>を流した。当該TV局のオンデマンドサービスの対象番組でなかったため、<b>権利者が明確でないうえに制作会社等との連絡も行えず、オンデマンドでの配信をあきらめた。</b></p>
医学					<p>【学内管理者からの情報】全学的にアクティブラーニングを取り入れ、<b>従来の紙ベースの講義プリント・資料等を予復習のためにPDF化してLMSから配信する試みが始まりつつあるが、それまでの紙ベースの教材では問題とならなかった事項が公衆送信権で問題となるケースが少なくなき、アクティブラーニングを指向した授業への変革が進みにくい状況</b>となりつつある。</p>
医学	基礎統合講義・細胞生理学	1年次	110名	<p>生体機能系の学習には、視覚による理解、静止画のみならず動画による情報提供が必要である。Web上の教材を学内サイトに掲載する、あるいはリンクできるようにして、自学自習で利用したい。</p>	<p>eラーニング教材としての利用は行わず、授業で見せる、紙媒体に印刷したものを配布することと、それ以上の情報を必要とするものは自らURLでアクセスして閲覧するよう指導している。利用したい著作物が多数あること、著作権者の連絡先を調べるのが手間であることなどから、それ以上の対応は行っていない。</p>
医学	統合講義	2年次、3年次	120名	<p>消化器疾患の診断には内視鏡画像の理解が欠かせないため、代表的な疾患の典型画像を全ての学生に提示したい。できればLMSへの掲示という形で、実験例、ネットから得られたもの、など多数例を供覧できるようなシステムを構築できればと考えている。</p>	<p>許諾手続きをとる手間や時間がないので、現在までは、法的に問題がないと考えられる形でのみ利用し、e-learning教材としては外部からの画像や情報を提示していない。</p>
薬学	薬効薬理処方解析学	6年次	150名	<p>薬理メカニズムのダイナミクスを可視化するため、画期的な新薬など教科書の編集時に存在しなかった薬物について図表等で追加する必要がある場合、インターネットにおいて開示されている表を使用している。(例:分子標的治療薬の作用機作など)</p>	<p>著作権者の連絡先がわからず許諾手続きできなかったため、自身の対面授業のパワーポイント教材にして見せるだけにした。</p>
保健・体育系	スポーツ科学のための物理・化学・生物、生理学	2年次	50名、150名	<p>視覚化によって理解を深めるため、運動の法則などのイメージ図や映像を、自学自習や授業内で利用したい。</p>	<p>許諾手続きをとる手間や時間がなかったため、自学自習のためにURLを示し、授業内では出典やURLを明示して見せるだけにとどめた。</p>